

RAYBRIG NSX CONCEPT-GTトラブルによりレース序盤でリタイア

RACE	2015 AUTOBACS SUPER GT Round3 『BURIRAM SUPER GT 300KM RACE』
DATE	予選：2015年6月20日 決勝：2014年6月21日
CIRCUIT	チャン・インターナショナルサーキット（タイ）
WEATHER	予選：晴れ/ドライ 決勝：晴れ/ドライ
RESULT	予選：9位 決勝：リタイア

2015年SUPER GTシリーズ第3戦は、日本を離れタイ・ブリラム県にあるチャン・インターナショナルサーキットが戦いの舞台となり、「BURIRAM SUPER GT 300KM RACE」が開催された6月20、21日にはトータル5万4793人（大会主催者発表）が来場。今年で2度目となるGTレースの迫りに酔いしれることになった。この大会で予選9番手からスタートを切ったTEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは、オープニングラップから果敢な攻めの走りを見せたが、ほどなくしてメカニカルトラブルに見舞われ、スピン。ダメージを受けたクルマをガレージに戻すと、そのままレースを終えることになった。



第2戦富士では車両トラブルに見舞われ、チェッカーを受けずして戦いを終えたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。このタイ戦ではまず結果を出すことが必要最低限の目標となる。当然それは、シーズン中盤以降をより有利に戦う上でも外せないミッションであり、ずばり表彰台を狙うことが真の目標。そのためにも着実な戦いを見せていきたいところだ。

土曜日の朝、公式練習を迎えたサーキットは気温32度、路面温度45度のコンディション。抜けるような青空が一面に広がる。チームでは予選に向けてのタイヤチェック、クルマのセットアップなど次々とメニューを消化。8番手でセッションを終了した。

◎ 予選：

迎えた午後の予選。Q1は山本尚貴選手が担当する。気温36度、路面温度58度と午前よりもさらに数値が上昇。厳しいコンディションの中、アタックに向けた山本選手は、自身ラストアタックでベストタイムとなる1分26秒009をマーク。Q1を突破したかと思われたが、最終アタックでタイムを更新したライバルがおり、最終的には9番手でQ1終了。なんと0.011秒という僅差でQ2進出を逃すという悔しい結果に終わった。

予選を見守った高橋国光監督も「難しい予選でした」と戸惑いの様子。「路面を含めて色んなコンディションが変化し、そこに対処することが難しいということですね。高いレベルでの戦いだからこそ、その怖さが出たと思います」と状況を振り返った。そして「決勝ではキチンと丁寧に、かつ攻めるところでしっかりと戦ってもらいたい。クルマもまずいい感じなので、レースではふたりのドライバーに任せたいと思います」と決勝に期待を寄せた。



一方、アタックを担当した山本選手は「練習走行でクルマ、タイヤの確認を行い、バランスの崩れもなかったし、予選への手応えもありました」と悔し気な表情。「アタック自体大きなミスもなく、感覚的にはQ1通過できたと思っていました。今回は攻められるクルマだったので結果を見れば残念ですが、クルマの仕上がりに対してはポジティブになれる部分もあるので、決勝でまたがんばりたいと思います」と気持ちを切り替えていた。

また、このサーキットで初の予選アタックを迎える予定だった伊沢拓也選手。Q2への出走は叶わなかったが、「朝のセッションでは初めてのサーキット走行で周回数もあまりなかったのですが、思ったよりもすぐタイムを出すことができたので、コースへの対応は早かったと思います。決勝はポジションを気にせず、いいレースをすれば順位を上げることができると思って戦います」と意欲を見せた。



◎ 決勝 :

決勝を迎えたチャン・インターナショナルサーキット。この日はやや薄曇り。しかしながら朝のフリー走行から気温は32度、路面温度38度と暑さは変わらない。

前日、Q1でアタックを終えたチームでは、このセッションで決勝への準備を進め10番手で走行を終了。その後、サーキットサファリのセッションでトップタイムとなる1分26秒314をマーク。決勝に向けての明るい材料を手に入れることになった。

気温37度、路面温度50度へと上昇した午後3時からの決勝レース。多くの地元ファンが見守る中、クリアスタートを切った山本選手は、オープニングラップでさっそく2台をパス。7位でメインストレートに戻ってくる。このまま引き続きポジションアップを狙うべく猛追を見せていた山本選手だが、4周目を走行中、急にクルマの挙動が乱れてスピンを喫してしまう。トラブルを負い、ペースダウンしたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTはそのままピットイン。サスペンショントラブルがその原因と考えられたことから、チームではレース続行を断念、戦列を離れることになった。

富士に続き、第3戦タイでも苦汁をなめることになったNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。真夏の第4戦富士では気持ちを一新し、戦いに挑む。

◎ 高橋国光総監督

前回引き続き結果が出なかったのも、いっそう残念で言葉もありません。ドライバー、チームスタッフみんなが一生懸命やってくれていただけに本当に残念です。レースだからこういうこともあるわけですが、それにしても残念すぎる結果なので、ドライバーには申し訳ないと思っています。応援してくれるファン、スポンサーの方々には引き続き見守っていただきたいと思います。

◎ 山本尚貴選手

決勝前のウォームアップではクルマの感触も良かったので、レースでは追いつけにも自信を持って挑みました。スタートで2台を抜いてポジションをふたつ上げたし、このまま順調にいけばかなり上位で伊沢選手にバトンを渡せるかなと思っていました。ところが突如クルマの挙動が乱れてスピンしてしまいました。今、詳しい原因は調べてもらっていますが、何らかのトラブルがあったと考えられます。悔しい気持ちでいっぱいですが、次のレースに向けて収穫のある部分もあるので、それを活かして次こそ上位でゴールできるようがんばりたいと思います。



◎ 伊沢拓也選手

このサーキットは初になるので、予選での出走を期待していたのですが叶わず残念でした。でも、朝のフリー走行は調子も良く、サファリの時もトップタイムを出していたので、決勝では確実に追いつけられると思っていたのですが、その直後にトラブルが出てしまってリタイヤすることになりました。自分自身、タイでのレースを走らずに帰るということは悔しいし、つらいですね。前回の富士から2戦連続で走らないままサーキットを去ることになるので、次こそしっかりと走り切ってポイントを獲得できるようにしたいです。

第4戦は8月8～9日に静岡県・富士スピードウェイにて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。